

介護人材に求められる機能の明確化と キャリアパスの実現に向けて

介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて(概要①)

現状

- 介護職の業務実施状況を見ると、介護福祉士とそれ以外の者で明確に業務分担はされていない。
- 介護過程の展開に中心的に関わっている介護職や利用者に関する介護過程の展開に必要な情報収集などを常に行っている介護職は少ない。
- 管理者の認識では、認知症の周辺症状のある利用者やターミナルケアが必要な利用者などへの対応、介護過程の展開におけるアセスメントや介護計画の作成・見直しなどの業務は、介護福祉士が専門性を活かして取り組むものという意識が高くなっている。
- また、チームリーダーにはチーム内の介護職の統合できる能力、人材育成力などの能力が求められているが、十分に発揮できていないと感じている管理者が多い。一方で、介護職の指導・育成や介護過程の展開等を重視している事業所では、チームリーダーの役割等を明確にし、キャリアパスへの反映などの取組を行っている。

今後の方向性

- 利用者の多様なニーズに対応できるよう、介護職がチームで関わっていくこと(チームケア)を推進するとともに、チーム内の介護職に対する指導やフォローなど、介護サービスの質の向上や人材の定着が図られるよう、一定のキャリアを積んだ介護福祉士をチームリーダーとして育成。
- 専門職としての評価と資質を高めるため、現場のケアの提供者の中で中核的な役割を果たすことができ、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士を養成。
- 介護人材のすそ野を拡げ、介護未経験者を含む多様な人材の参入を促進するとともに、介護分野に参入した人材が意欲・能力に応じてキャリアアップを図り、キャリアに応じた役割を担うことができる仕組みを構築。

介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて(概要②)

チームリーダーについて

- ✓ 介護サービスの質を向上させるとともに、介護福祉士の社会的評価を高めるため、一定のキャリアを積んだ介護福祉士がチームリーダーとして担うべき役割等を明確化。
- ✓ 現場での実践の中で、チームリーダーに必要な知識・技術を分野毎に修得できる研修プログラムの検討。

【チームリーダーが担うべき役割と求められる能力、育成内容】

① 高度な技術を有する介護の実践者としての役割

- ・ 認知症の症状に応じた対応、医療の必要性が高い方への対応、終末期の方に対する看取りを含めた対応、障害の特性に応じた対応といった役割を担うにあたり、利用者の心身の状況等に係る観察力、利用者の状態に応じて適切な対応ができる判断力、認知症の症状や病状等に応じた介護等を提供できる業務遂行力、様々な職種と連携して業務を遂行できる多職種連携力といった能力が求められる。
- ・ 育成にあたっては、「認知症や障害特性等に係る知識を個別支援に活かす視点」、「自らのケアの実践を振り返り、深化させるための実践研究の方法」、「医師、看護師、リハ職等と連携してケアを提供する際の視点」を修得できる内容とすべき。

② 介護技術の指導者としての役割

- ・ チーム内の介護職に対する介護技術の指導・伝達、チーム内の介護職の能力を引き出す支援といった役割を担うにあたり、エビデンスに基づいた介護技術の指導・伝達により後生を育成することができる指導力、個々の介護職員の能力に応じた指導力といった能力が求められる。
- ・ 育成にあたっては、「エビデンスを適切に伝えるためのコミュニケーションの方法」、「個々の職員の能力や特性を見極めるための人材アセスメントの方法」を修得できる内容とすべき。

③ 介護職チーム内のサービスをマネジメントする役割

- ・ 介護過程の展開における介護実践の管理、チーム内の介護職のフォロー、様々な職種や機関からの利用者に関する情報収集と情報共有といった役割を担うにあたり、介護計画等に沿った介護が提供されているかの管理やチーム内の介護職に対するフォローなどのマネジメント力、多職種と情報共有できる多職種連携力、チーム内のサービスの質の改善力といった能力が求められる。
- ・ 育成にあたっては、「介護職の力量に応じた業務の割り振りなどの人材マネジメントの方法」、「介護過程を管理するための実践を評価する方法」、「チーム内のサービスの質を改善するための問題解決と分析の方法」を修得できる内容とすべき。

介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて(概要③)

介護福祉士に必要な資質について

✓ 介護福祉の専門職である介護福祉士について、現場のケアの提供者の中で中核的な役割を果たすことができ、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士を養成するため、養成課程におけるカリキュラムの見直しを検討

※ 見直しにあたっては、既存カリキュラムの教育内容も見直し、内容の統廃合を行うなど、養成施設や学生の負担にならないよう留意。

※ 介護の専門性を高めていくため、介護技術等の研究を重ね、養成課程における教材開発や教育方法など、教員側の養成も重要。

【これまで求められてきた役割に加え、今後、より介護福祉士に求められる役割】

- ・ 現場のケアの提供者の中で、チームリーダーのもと専門職として中核的な役割を果たすことが求められるとともに、認知症高齢者の増加や高齢単身世帯の増加、世帯構成の変化、地域移行の推進による地域で暮らす障害者の増加などに伴う生活支援も含めた介護ニーズの複雑化・多様化・高度化への対応。
- ・ 本人のエンパワメントを意識した支援や家族の介護負担の軽減に資する助言。
- ・ 介護予防の観点から、利用者が元気で居続けられるような支援。
- ・ 医師、看護師、リハ職などの多職種と協働したケアのさらなる実践。

【カリキュラムの見直し例】

- ・ チームリーダーの下で専門職として役割を発揮し、将来的に自らがチームリーダーを担う際の素養として、リーダーシップやフォロワーシップといった内容を学んでおくことが必要。
- ・ 認知症の方に対する支援のあり方の変化(本人の意思(思い)や地域とのつながりなどを重視する支援)を踏まえ、認知症に関する学習内容の充実が必要。
- ・ 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に適切に対応できるよう、利用者が生活する地域や集団との関わりといった社会との関係性も含めたアセスメントや利用者の状況の変化に対する観察力の強化など、介護過程の学習内容の充実が必要。
- ・ 学んだ知識を現場での実践に結びつけていけるよう、養成課程の中で学んだ知識を統合化し、実践に活かすための訓練が必要。
- ・ 医師、看護師、リハ職など様々な職種と連携してケアを提供していくことができるよう、多職種協働を意識した事例検討を積み重ね、実習の際に実際のケアカンファレンスの場で確認することが必要。

養成の目標

これまで求められた介護福祉士像

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

社会の変容や
制度改正等

今後、求められる介護福祉士像

1. 尊厳を支える「個別ケア」の実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 本人のエンパワメントを意識した自立支援を重視し、複雑化・多様化・高度化した介護ニーズ、制度改正後の政策にも対応できる
4. 施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 介護予防の観点から利用者の状態を維持できる支援を行うとともに、予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 家族の介護負担の軽減に資する助言など、利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
9. 関連領域の基本的な理解
10. 高い倫理性の保持

介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて(概要④)

介護人材のすそ野の拡大について

- ✓ 介護分野への参入のきっかけを作るとともに、参入障壁となっている不安を払拭するため、入門的研修を導入。
- ✓ 入門的研修の導入により、介護人材のすそ野を拡げ、中高年齢者など多様な人材の参入を促進する。
- ✓ これにより、介護職のサポーター(ボランティア)として介護分野に参入し、希望に応じて介護職となるような施策にも活用され、介護人材確保対策としての効果も期待される。

- ※ 導入にあたっては、介護職員初任者研修等の既存の研修内容も踏まえ、受講科目の読み替えが可能となるような配慮が必要。
- ※ 研修時間については、受講対象者として想定される介護未経験者の研修受講負担を考慮しつつ、一定の介護の質を担保できるような時間とすることが重要。

【入門的研修の内容】

- ・ 介護保険制度等の制度に関する内容、移動や着脱などの基本的な介護の方法、認知症に関する基本的な理解、緊急時の対応方法など。

医療との役割分担について

※新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会の最終的なとりまとめも踏まえて方向性を提示。

【前回の福祉人材確保専門委員会における主な意見】

- ・ 医療的ケアについては、範囲の拡大を前提とするのではなく、現状を評価した上で必要であれば見直しを行っていくべきではないか。
- ・ 医療的ケアの範囲拡大の議論をする前に、医療的ケアの質の担保ができているのかなど、どのような課題があり、どのように対応していくのかといったことを評価する必要があるのではないか。

【新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会 中間的な議論の整理(平成28年12月22日)～抄～】

- ・ これまでの取組みや安全性も踏まえつつ、看護師・薬剤師・介護人材等の業務範囲の拡大等による柔軟なタスク・シフティング及びタスク・シェアリングを推進する。さらに、急性期と在宅・介護の連携など、医療介護の幅広い分野で職種横断的に活躍できる人材の育成や、非専門職であっても地域におけるケアやソーシャルワークへの参加が促される取組みを進める。

介護人材のキャリアパスについて

- ✓ 介護人材のキャリアパスの実現にあたり、介護未経験の者であっても、安心して入職し、さらなる専門性の向上を目指す者が目指すべきキャリアに応じて専門性を修得できる仕組みを構築。

【実現に向けた具体的施策】

- ・ 必要最低限の知識・技術を修得する機会を設けるとともに、介護福祉士の資格取得後もチームリーダーに必要な知識・技術を分野毎に修得できる現場での実践を通じた研修プログラムを検討。